第3章　座 談 会

「連携連絡票」を活用した地域包括ケア推進

気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会で作成した「医療機関（医師・歯科医師・薬剤師等）とケアマネジャー等の連携連絡票（以下連携連絡票）」は，現在，地域の医療機関やケアマネジャー等によって活用され，気仙沼管内の医療と介護が連携した地域包括ケアを推進するツールとなっています。委員会のメンバーである小松治氏（宮城県ケアマネジャー協会気仙沼支部副支部長），菅原恭氏（一般社団法人気仙沼歯科医師会理事），髙橋祥恵氏（東部児童相談所技術主任主査（元気仙沼保健福祉事務所）），武田雄高氏（一般社団法人気仙沼薬剤師会会長），村岡正朗氏（一般社団法人気仙沼市医師会理事），森田潔氏（一般社団法人気仙沼市医師会会長，宮城県ケアマネジャー協会会長，同協会気仙沼支部長）にお集まり頂き，「連携連絡票」作成までの経緯を伺いました。

●聞き手：築場玲子，熊谷知華（気仙沼保健福祉事務所）

「連携連絡票」を作成した経緯

東日本大震災後に設置された委員会

築場

まずは，連携連絡票を作成することになったきっかけについて伺います。

小松

当時，保健福祉事務所が行っていた居宅介護支援事業所の実地指導の際に，医療との連携について指摘されることがあり，その度に「それはこっち（介護側）の問題じゃないのでは？」って正直思っていました。そもそも医師がケアマネジャーに会ってくれないのです。外来受診に同行して時間をかけて会ったのに怒られたりする。「そんなに言うんだったら，県が医師会と話し合って連携しやすい環境を整えてよ。」って思っていたのが正直なところです。

そんな状況の中，東日本大震災が起きて，震災後に病院に行けずに困っている方を支援するために，村岡先生を隊長として結成された「気仙沼巡回療養支援隊（以下JRSと略）」を結成して，ひょんなことから私がケアマネジャーとして加わることになりました。それがきっかけで介護と医療の連携が構築され始めまして，そこで村岡先生とも仲良くなったという状況です。森田先生は震災前から，ケアマネジャー協会の支部長を務めていただいており面識がありましたが，他の先生方とは，なかなか話す機会がありませんでしたのでJRSは医療と介護の連携を構築するにあたっての大きな第一歩でした。そのJRSが役割を終え解散するにあたり，構築され始めた医療・介護・福祉の連携構築の流れを絶やさずに発展させるために「気仙沼・南三陸在宅地域医療福祉推進委員会」が設立され，「もしかして同じ様な

小松（こまつ）　治（おさむ）さん

Profile

宮城県気仙沼市出身。気仙沼市内の病院に約10年務めた後，株式会社宮城登米広域介護サービスへ就職。現在，広域介護サービス気仙沼にて介護支援専門員として勤務。